

はじめに

この国の2024年は、元日の16時10分に発生した「令和6年能登半島地震」（気象庁による正式名称）で始まりました。地震の規模はマグニチュード7・6、輪島市と羽咋郡志賀町で最大震度7を観測しました。その被害が甚大であったことは言うまでもありません。

しかし、8カ月が過ぎても復旧・復興の取り組みは遅く、道半ば以前の状況でした。それはまさに、地方そして第1次産業を軽んじるこの国の姿勢を象徴していました。

自然や地域の大切な産業や生活基盤、もちろんそこで暮らす人々に対する敬意を払わぬなめきった姿勢が、取り返しのつかない人災を引き起こすことを多くの人は危惧していました。

9月21日、地域に残り、気丈にそれまでの日常を取り戻そうとする人々の、折れかけた心を砕き潰すかのように降り注いだ非情な豪雨が、危惧を現実のものにしました。

1989年4月から8年間、石川県農業短期大学（現石川県立大学）で教壇に立ち、能登半島そして奥能登地域を何度となく訪問した者として、とてもつらい出来事で、一日も早い復旧・復興を願っています。

そのためには、地方に対しては国土の大切な一部として、第1次産業に対しては平和的国防産業として敬意を払い、その持続性を保障するためのあらゆる対応策を講じることが不可欠です。

本書は、一般社団法人農協協会がインターネットで配信しているJ A c o m & 農業協同組合新聞において、毎週水曜日に担当しているコラム「地方の眼力」の2023年度に掲載された48編からなっています。これまで出版してきた『農ある世界と地方の眼力』シリーズの第7弾です。

コラム「地方の眼力」は一貫して、地方や第1次産業を軽んじるこの国の姿勢を糾すべく、「地方」と農業・農家・

農村・農協（JA）という、いわゆる「農ある世界」を巡る今日の状況を組上そじょうにあげ、少しでもその解決の糸口を提示することを目指しています。

本書も第6弾までと同様に、掲載順に並べるスタイルを取ることで、ウィークリー・クロニクル（週間記録帳）としての性格を有しています。内容は原文を尊重し、必要最小限の修正・調整にとどめました。また、個人の所属や肩書き、組織名なども初出時点のままとしています。ご了承ください。

本書が取り上げた主なテーマをキーワードで示すと、石木ダム、チャットGPT、民主主義、子育て政策、食料・農業・農村基本法改正、女性地方議員、世襲議員、PAC3、南西諸島、半農半X、平和的国防産業、東京一極集中、インボイス、メディア、公共交通、研究者育成、中山間地域、小規模農家、辺野古代執行、クラウドファンディング、財政審、農業補助金、Aコープ、防衛パブル、能登半島、裏金、地方創生、国消国産、原発、食料安全保障、オーガニックビレッジ宣言、そしてJAなどとなります。

多方面にわたるテーマを取り上げてはいますが、「地方」そして「農ある世界」に少なからぬ関係性を持つ出来事はかりで、根っこでは繋がっています。そして、「地方」や「農ある世界」にはこれほど多様な問題が日々生じているのです。

「地方」や「農ある世界」をめぐる状況が好転することに、少しでも貢献することを願って書き続けてきましたが、残念ながら暗転することはあっても、好転する兆しさえ見いだし得ません。

だからこそ、ライフ・ワークとしてあきらめることなく書き続けていく覚悟です。

毎週発表の場を提供していただいている一般社団法人農協協会と、厳しい出版事情の中、今回もまた快く出版の機会をご提供いただいた株式会社大学教育出版には、厚く御礼申し上げます。

そして、引き続きのご支援をお願いします。

2024年11月30日

小松泰信

農ある世界と地方の眼力7
——令和漫筆集——

目次

はじめに i

樹々は万人、開発は蛮人^{ばんじん} (2023・04・05) 3

石木ダム問題にも心を寄せる／被災地の若者に希望を／社会・政治に参画するのは民主主義の基本／「なぜ」原
発に回帰する?!／樹々は万人に恩恵をもたらす

「チャットGPT」はチャットだけよ (2023・04・12) 7

未恐ろしいチャットGPT／メガバンクが導入／政府も活用を検討／悩み多い大学／判断を下すのは人間の英知
／あなたは何を付加するのか

焦らず挫けず民主主義 (2023・04・19) 11

木村容疑者の主張要旨から見えるもの／不受理見越して立候補／大学生の苦勞を伝えたい／悲劇は政治の不作
為が引き起こす

一票の重さを思い知るとき (2023・04・26) 15

この程度で喜ぶなかれ／政治は特定の団体や勢力が独占する場ではない／「政権交代なき民主主義国家」は「権
力支配国家」

明石市が証した政治の不作為 (2023・05・10) 19

異次元の財源議論／動き始める現場／明石市の子育て政策／「子どもの未来」は「社会の未来」／「不平等の再
生産」を断ち切るのは大人の責任

飢えるカム JAPAN!	(2023・05・17)	23
「G7農業大臣声明2023」と「宮崎アクション」の注目点／農業問題は「命を守る」問題／軍事費増えて国民飢える／対抗アクションを開催した農民連／この危機感をどう伝える		
「法の見直し」と「国の責務」.....	(2023・05・24)	27
食料・農業・農村基本法を見直す理由／農業者が重視する見直し事項／食料自給率を葬るのか／「国の責務」は果たされたのか		
女性地方議員は地方の希望.....	(2023・05・31)	31
頑張る農業女子町議／よそ者への優しさが地域を守る／急げ！女性が参画しやすい環境づくり／地方の希望をなめんなよ		
世を襲う政治家たち.....	(2023・06・07)	35
復元するのは天守閣と「差別の構造」／「ぼっち上等！」の心意気／政治家の世襲化を阻止する		
諦めません勝つまでは.....	(2023・06・14)	39
地对空誘導弾パトリオット（PAC3）をめぐる「不都合な真実」／問題は諦めさせる構造にあり／地域（自治体）外交に希望		
堂々とブリンケンの後塵を拝せよ.....	(2023・06・21)	43
他人事論評の全国紙／日本政府に外交努力を求める地方紙／日中友好議員連盟の動きに希望／北朝鮮にも行かせなさい		

政府の危機感 は離島の危機	2023・06・28	47
究極の迷惑施設／島は大揺れ／これは懐柔策でしょう／政府の危機感にこそ危機がある		
冥土 in JAPAN	2023・07・05	51
気になるポストと大臣の思考回路／武器はいらんかね？ いらん！／危機を訴える多くの地方紙／本当に愚かなこと		
農ある世界でセカンドキャリアを	2023・07・12	55
コロナ・家庭菜園・戦力外、そしてイチゴ農園へ／レモン農園を軸に、動物愛護・ライブ配信・野球指導を／タマネギ栽培がっちり／半農半Xが誘う変幻自在の生き方		
平和的国防産業の時給は10円	2023・07・19	59
「食料の兵器化」への怒り／避けられぬ影響の長期化／「亡国の農政」を「望国の農政」に		
軽薄メディアと忍び寄る戦火	2023・07・26	63
「調整」で済ませるほど軽い問題ではない／だれか、丁寧に説明してください／基地は攻撃対象となる／シエラターやリーダーは本当に必要なのか		
子どもを愛し、能力を高める	2023・08・02	67
少子化に歯止めかからず／不可欠な自治体間協力／いまだ東京圏一極集中は正されず／「基地開設で人口増加」がそんなに嬉しいか／小学生の声を聞き、そして活かす		

地方はつけ込まれるな……………	(2023・08・09) ……
覚悟を持って戦うべき相手は誰だ／政府の手口に騙されるな／少しも信頼関係は深まっておりません／地方の苦境につけ込む政治家を許さない	
汚染水は汚染し続ける……………	(2023・08・23) ……
怖いのは「あきらめ」という心の空洞化／風評被害は絶対に起こる／順調に進まぬ廃炉作業／復興の障害は信用できない政府／次は汚泥の引受先を探します	
愚策インボイス制度を許さない……………	(2023・08・30) ……
エンタメ・芸術分野も黙っていない／インボイス制度を導入する政権にはレッドカード／JAGグループはインボイス制度に賛成ですか？／インボイス制度で格差拡大	
真つ当な人材を枯渇させる国……………	(2023・09・06) ……
嘘つきは政治家、国家公務員の始まり／教員不足も深刻／教育は人なり／真つ当な人材を育てる	
随ちたブランドと共犯者……………	(2023・09・13) ……
これぞまことのブラック企業／「解体無き出直し」とは虫が良い／「メディアの沈黙」は禁／買いませんジャーナリストブランド	
命の声が聞こえるか……………	(2023・09・20) ……
価格転嫁の困難性と「直接支払い」の充実／農産物価格形成の特徴から考える／それについても食料自給率の低下よ／重要な平時からの備え／この布陣にご用心	

愚策インボイス 波風立てなきや変わらぬ……………(2023・09・27)……………

農家になんてならなければよかった／国民の暮らしは火の車／Rock the boat! (波風を立てよう!)／対馬市長の判断に拍手

公共交通網の整備は国づくりの要諦……………(2023・10・04)……………

公共交通に対する国の責任／鉄路維持かバス転換か／只見線が再生モデルとなるための課題／厳しい状況にある2次交通／国の責任転嫁を許さない

研究者の使命と矜持……………(2023・10・11)……………

ネバーギブアップ／地道な研究を育む大切さ／やはり継続は力なり／失政が無数の「カリコ氏」を産む／市民の力で社会は変えられる

天下の命脈を握る農業者……………(2023・10・18)……………

「露骨な国会統制」は禁物／「中山間地域の農業や小規模農家などの振興」を忘れるな／農業者の44・5%が岸田内閣を支持／農業者の見識

「聞く力」無き者に届かぬ民意……………(2023・10・25)……………

辺野古代執行が教える民意無視／オスプレイが教える民意無視／米軍犯罪が教える民意無視／所信表明演説が教える民意無視

放置国家政権を放置しない……………	(2023・11・01) ……	114
愚策インボイスは「むごい」／トラック運転手が危惧すること／放置される国立大学／大企業と政府自民党の「カネの支配」がもたらす庶民の「カネ不足」		
防衛費はクラウドファンディングで……………	(2023・11・08) ……	118
合言葉は、「#地球の宝を守れ」／政府にとっては他人事／地方でも文化財の保全費用は課題／地球の宝、国の財産を守らない国ニッポン		
基本法は本当に「農政の憲法」なのか……………	(2023・11・15) ……	122
信共依存型経営構造の行き詰まり／万能薬ではないＪＡ合併／ＪＡグループ基本農政確立全国大会の概要／「農政の憲法」の魂はどこにある		
「財政審の建議」に嫌疑あり……………	(2023・11・22) ……	126
有事対応と医療・介護分野の徹底した歳出改革／医療や介護分野の現場に分断をもたらす増田発言／「有事」パブルですか／どうする食料安全保障の強化財源／この建議こそ「有事」		
農業に危機感を抱く国民へのアプローチ……………	(2023・11・29) ……	130
注目すべきスイスの農業政策／農業は戦略的価値の高い職業／農業問題への関心は高まっている！／補助金の意義や正当性を訴える		

北海道農業の危機は日本の危機…………… (2023・12・06) …… 134

食料供給基地の深刻な担い手不足／北海道にも忍び寄る調達の困難性／遅々として進まぬ肥料国産化／「口だけ危機」こそ危機

Aコープを閉店させたのは誰だ…………… (2023・12・13) …… 139

鳥取県内全Aコープ「一斉閉店」の衝撃／JA鳥取いなばの苦渋の決断／「閉店期間」をどう乗り切るか／難儀する利用者／総力を挙げて「地域と共に、暮らしと共に」を実践せよ

政治屋と財界改め罪魁ざいけいの罪…………… (2023・12・20) …… 143

自民党の自浄能力に疑問／家業かつ稼業の政治屋集団に自浄は期待できない／財界は「罪魁（犯罪者のかしら。悪事の張本人）」か

国益仮面を引きはがせ…………… (2023・12・27) …… 146

2兆2686億円のどこがめでたい／農政活動の成果にご満足ですか／この国を破壊する「防衛パブル」／机上の「国民保護」では守れない／国益の仮面をかぶった亡者たち

台湾有事より能登有事…………… (2024・01・10) …… 150

少々へこんでいます／復旧・復興は迅速に進むんだよね／まさに能登有事／熊本に学べ／地震被害想定に問題あり／岸田首相支持率回復の秘策

能登半島が突きつけるこの国の未来……………	(2024・01・17) ……
「何とかします」と言われても信用できない／能登半島問題は中山間地域問題／自治体の役割と限界克服策／本気で能登半島の復旧・復興を考えているのか	(2024・01・24) ……
「裏金」身に付かず……………	(2024・01・31) ……
安倍派幹部は立件されず／幹部こそ切除されるべき患部／岡山県民はどう思う／被害者である国民がすべきこと	(2024・01・31) ……
トヨタとキシダ……………	(2024・02・07) ……
悲鳴を上げる現場を見ざる、聞かざる／こころ被災地にあらず／「かぐ力」はおありですか／地方創生どころではないのか	(2024・02・21) ……
唯一の武器を放棄するなかれ……………	(2024・02・21) ……
直訴から始まる主権者教育／こんな子どもたちも／大人たちよ大丈夫かい／この子どもたちを裏切らない	(2024・02・14) ……
JAグループのレゾンデートル……………	(2024・02・21) ……
やりがい搾取は許さない／無いのは財源か／平和的国防産業より軍事的国防産業が大切なのか／国民や消費者に訴える力／レゾンデートルを見失ったものに訴求力無し	(2024・02・21) ……
新解釈「国消国産」……………	(2024・02・21) ……
岸田内閣アウト！なんですけど／アメリカに広がる「熱いスト」／欧州の農業者も怒っている／「兵糧攻め」でゼネストへ	(2024・02・21) ……

『日本中学生新聞』の願い……………(2024・02・28)……………

原発のトイレ探し／未来の子孫たちの生存に禍根を残すな／まずは脱原発／「交付金頼み」の立地推進策の限界
／復旧・復興は原発反対運動への恩返し

食料安保と環境負荷低減……………(2024・03・06)……………

農家収入の安定化と地域・集落農業の維持／重要なのは平時の着実な対策／「効率的安定的な農業経営」至上主義者の嘆き／環境負荷低減こそ究極理念／導入されるクロスコンプライアンス

誰がために原発はあるのか……………(2024・03・13)……………

核燃料サイクルで金も票も自民党へ／薄く広く電力料金に乘せてうみだす電金術／原発政策のほころびは繕つて
とが“出来ぬ出来ぬ”

有機農業、生物多様性とJA……………(2024・03・27)……………

福島県二本松市のオーガニックビレッジ宣言／地域生物多様性増進活動促進法案と能登半島／JAの影が薄い

農ある世界と地方の眼力7

—— 令和漫筆集 ——

樹々は万人、開発は蛮人

ばんじん

(2023・04・05)

「長崎原爆を題材とする映画『母と暮せば』の音楽を引き受けて『核のない世界を望む僕としては、やるしかない』とコメントしている。強いメッセージを心の赴くままに発するのにも、日本人の芸術家として生まれた」と、坂本龍一氏（3月28日逝去）の死を悼むのは長崎新聞（4月4日付）のコラム「水と空」。

石木ダム問題にも心を寄せる

さらに同紙は社会面で、環境問題に関心を寄せ、積極的に発信していた坂本氏が、2018年3月、長崎県と佐世保市が川棚町かわなちょうに計画する石木ダムの建設予定地を訪問したことを伝えている。

氏は、石木川周辺を歩き、記録写真などを見て、「美しい棚田が目を引き、ウグイスの鳴き声が聞けるぜいたくな場所」と感想を語り、サイン色紙を公民館に残した。

「世界的に有名な方が、実際にやってきて、話を聞いてくれたことにとっても励まされた。亡くなって本当に残念」としのぶのは、住民の岩下すみ子氏。

坂本氏は同紙の単独インタビューに、「一度決めたことを変えない公共事業の典型例」と疑問を呈した。この問題がわれわれに投げかけているものは何か、と記者から問われ、「たとえ13世帯だけだとしても、その小さな公共を守れないければ、大きな公共も守れないのではないかと、答えたそうだ。

被災地の若者に希望を

「世界的音楽家の坂本龍一さんは病と闘いながら、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の被災地に寄り添い続けた」で始まるのは、福島民報（4月4日付）の社説。

氏は、福島、宮城、岩手3県の若者で結成した「東北ユースオーケストラ」を代表・監督として率い、「練習では、技術のみならず音楽との向き合い方を教え、本県や東京で共演した際は満面の笑顔で一人一人の手を握った」そうだ。

「被災した方の心にあいてしまった穴を埋められるのが音楽やアートだ」「音楽やダンスがなければ、人類はこれだけ長くやってこられたでしょうか」との言葉も紹介する。

そして、亡くなる2日前の3月26日まで開かれた今年の公演をオンラインで見守り、出演者を「すごくよかった。みんなありがとう」とねぎらったとのこと。この濃密な時間が、「団員にとってかけがえのない財産になるだろう」と記している。

万感胸に迫るものあり。

社会・政治に参画するのは民主主義の基本

「反戦や脱原発運動に熱心に取り組むなど、音楽に生き、行動に生きた偉才」と、氏を称えるのは東京新聞（4月4日付）の社説。

社会に向けた発言や行動に注目し、「森林の保全や植林などを進める一般社団法人『more trees』の設立」「論考集『非戦』の監修」「脱原発運動」などを紹介し、「この国のアーティストには、社会的な発言をためらう風潮もある中で、その存在感は突出していた」とし、「残念ながら今年3月には作家の大江健三郎おほえけんぞうさんが他界し、そしてまた坂本さんを

失った。この国の未来のために『反戦・脱原発』を訴えた二人をしのび、その遺志を受け継ぐ思いを新たにしたい」と決意表明。

毎日新聞（4月5日付）の社説も、「欧米ではアーティストの政治的発言は当たり前だが、日本では批判されることが少なくない。そんな風潮を意に介さず、『職業に関係なく社会・政治に参画するのは民主主義の基本』と語っていたことを紹介する。

「なぜ」原発に回帰する？！

今となつては、われわれに對する遺言ともいえるふたつのメッセージが坂本氏から発せられている。

ひとつは、「福島原発事故12年」に合わせて東京新聞（3月15日付）に寄せられたもの。注目したところは次の通り。

「2011年の原発事故から12年、人々の記憶は薄れているかもしれないけれど、いつまでたっても原発は危険だ」

「なぜこの国を運営する人たちはこれほどまでに原発に固執するのだろうか」

「わが国では、なぜ未完成で最も危険な発電方法を推進しようとするのか分からない」

「世界一の地震国で国民を危険にさらし、自分たちの首もしめるというのに、そこまで執着するのはなぜだろう」

このように、「原発は危険」であるにもかかわらず、原発回帰の姿勢を強める政府に対して、「なぜ」を連ねて迫っている。

樹々は万人に恩恵をもたらす

もうひとつは、東京都の小池百合子知事らに送った、明治神宮外苑地区の再開発の見直しを求める手紙である。

東京新聞（3月18日付）に掲載された、小池都知事宛ての手紙（要旨）で、注目したところは次の通り。

「率直に言つて、目の前の経済的利益のために先人が100年をかけて守り育ててきた貴重な樹々を犠牲にすべきではありません。（中略）いま世界はSDGsを推進していますが、外苑の開発はとても持続可能なものとは言えません。持続可能であらんとするなら、これらの樹々を私たちが未来の子供たちへと手渡せるよう、現在進められている再開発計画を中断し、見直すべきです。東京を『都市と自然の聖地』と位置づけ、そのゴールに向け政治主導することこそ、世界の称賛を得るのではないのでしょうか。あなたのリーダーシップに期待します」

さらに、同紙からの書面インタビューに対する坂本氏の回答で、注目したところは次の通り。

「未来のことを考えた時、あの美しい場所を守るために何もしなかったのでは禍根を残すことになると思いました。後悔しないように陳情の手紙を出すことにしたのです」

「樹々は差別なく万人に恩恵をもたらしますが、開発は一部の既得権者と富裕層だけに恩恵をもたらします。そのためにかけがえのない樹木を伐採していいのでしょうか」

「私が生まれ育った大切な故郷である東京が美しく魅力的な場所であってほしい」

再開発の内容を承認し、計画実現のため建築規制を大幅に緩和し、事業の施行を認可したのはもちろん東京都。

にもかかわらず、小池都知事は、「明治神宮の私有地をめぐる開発の話」（3月3日の会見）、「事業者の明治神宮にも手紙を送られた方がいいんじゃないでしょうか」（3月17日の会見）と、まさに樹で鼻をこくる対応。まさに蛮人の代表。

「地方の眼力」なめんなよ

「チャットGPT」はチャットだけよ

(2023・04・12)

「ついにAIも別次元に到達したのではないかと感じたのだ。みなさんも一度『対話』して、わたしのショックを共有してもらいたいです」と記すのは、作家・高橋源一郎氏。たかはしげんいちろう（「サンデー毎日」4月9日号）

末恐ろしいチャットGPT

高橋氏のすすめに従い、早速ネットの無料版に「チャットGPTを簡単に説明する」を入力すると、「チャットGPTは、OpenAIが開発した大規模な言語モデルの一種であり、人間のようにチャット形式での対話ができるAIアシスタントです。（中略）様々なトピックやテーマに関する質問や情報を理解し、それに応じたストーリーを生成する能力を持っています」などと回答が現れる。

まさに優れもの。昨年11月に登場してこの水準だから、末恐ろしい。

末恐ろしさを感じているのは、「チャットGPT」などAIを用いた製品の基礎となるディープラーニング（深層学習）研究の先駆者であるヨシユア・ベンジオ教授（モントリオール学習アルゴリズム研究所）もしかり。

毎日新聞（4月11日付）のインタビュアーに応じたベンジオ氏は、「AIが政府や企業などに悪用されることで人類を脅かす『核兵器』のような存在にもなり得ると懸念を示し、AI規制をめぐる『強い国際的な協定』で合意すべきだと訴える一方で、「教育や医療、環境などの分野での活用」を求めている。

メガバンクが導入

日本経済新聞（4月11日17時配信）は、三菱UFJ・FG、三井住友FG、みずほFGが対話型AIを導入することを伝えている。

三菱UFJでは稟議書の作成や社内からの照会対応などで対話型AIを利用していく方針。煩雑な業務の一部を対話型AIに肩代わりさせることで、生産性の向上に効果があるとみている。

三井住友FGは日本マイクロソフトと独自開発した対話型AIを行内業務に活用する実験を始めた。事務規定を調べる際に使うほか、取引先の基本情報収集など稟議書の草案作成への活用も想定する。

みずほFGもAIを使った対話型ソフトを社内業務に導入する方針。

いずれも、情報漏えい対策には万全を期すとのこと。

記事は、これら3メガバンクの動向を受けて、他の大企業にも導入を探る動きが広がる可能性があることを示唆している。

もちろん、企業だけではなく、至る所で活用されていくはず。

政府も活用を検討

毎日新聞（4月12日付）は、政府が、不適切なデータ収集などへの懸念の払拭を前提に、「チャットGPT」の国会答弁など行政分野での活用を検討していることを報じている。

河野太郎デジタル相は4月7日の記者会見で、「役に立つ部分は多く、懸念点がクリアされれば考えたい」と述べ、中央省庁での文書作成に生かせるかどうか検討する考えを示し、西村康稔経済産業相も11日、「国家公務員の業務負担